
春風

あめこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

春風

【Nコード】

N5726B

【作者名】

あめこ

【あらすじ】

ある晴れた日の、私と風の話。気まぐれな春風に私は振り回されて。

今日は暖かな日。

まだ三月の半ばだというのに、もうすっかり春のような陽気だった。

私は玄関に行き、慌ただしくスニーカーに足を突っ込んだ。

爪先をトントン、とやって、開きっぱなしの玄関の戸から出る。

視界が急に白くなった。

今まで暗い家の中に居たのにいきなり外に出たから目が驚いたのだろう。眩しくてなかなか慣れない。

ようやくその明るさに慣れてくると、だんだん景色がはつきりしてくる。

二歩、三歩と歩いてみる。

やはり今日は暖かい。

歩いただけで分かる。

全身を包むように光が差し込んでいるし、そのおかげで体が妙に温

かいのだ。

春みたい。

そう思つて、私は家を出た。

風が吹く。

柔らかな風だった。

冬の刺すような鋭いものではなくて、穏やかな優しい風。

これを春風というんだろうな。

と、ぼんやりと思う。

いつも、いつの間にか春になっているような気がしていたから、風の移り変わりを見つけられたのは嬉しかった。

ふと、下を見る。

そこに、見逃してしまいそうな、小さな、本当に小さな花が咲いていた。

薄紫色の花。

オオイヌノフグリ。

しゃがんで地面に顔を近づけ、オオイヌノフグリをよく見えるようにする。

この花が咲いているのは、もう『春』という証。

やはり春はもうそこまで来ているのだ。

いや、もうとっくに来ているのかもしれない。

私はオオイヌノフグリを摘みとった。

上に掲げるようにして持つと、柔らかな日差しがオオイヌノフグリの花びらを透かし、綺麗だった。

思わず顔がほころんだ、その瞬間。

いきなり強い風が吹いた。

私はとつさに手を離してしまった。

風がオオイヌノフグリをさらっていく。

「あっ」

声に出して風の行方を見つめるが、もう遅かった。

あの花はどこにもない。

気が抜けてその場に腰を下ろす。

優しくったり、意地悪をしたり、変な風だ。

「春風め」

私はそう呟くと、立ち上がり、さっき風が吹いた方向を見据えた。文句の一つでも言ってやりたい気分だった。

するとまた風が吹く。

ただし今度は穏やかな風だった。

謝っているつもりだろうか。

私の頬や髪を撫でているよう。

『じめんなさい』

と。

気まぐれな奴だ。私からオオイヌノフグリを奪っておいて。

怒るに怒れないじゃないか。

ほんと、気まぐれな奴。

春風は、いつの間にかやって来て、いつの間にか去っている。

気まぐれ、気まぐれ。

（後書き）

すみません、力不足ですね（汗）

春の訪れをどうしても書きたくて、表現したくて。書きました。

でも支離滅裂。

す、すみません…

ここまで読んで頂きありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5726b/>

春風

2010年10月10日07時25分発行